

反戦平和部会

文責：島原登志郎

【方針】

反戦平和のため、「街頭行動・デモンストレーション・ピースウォーク」参加/呼びかけと、市民運動側の情報交流（分析・レポート作成など）を行う。

「反戦」は、「平和」の必要条件であって、十分条件ではない。「平和」を脅かすものは、なにも、目に見える「戦争」だけではない。たとえ、私たちは、いまここで、戦火に晒されていなくても、戦争を下支えする構造には逃れ難く絡めとられているかもしれない。このような日々の生活や構造的・歴史的な問題を考えていくため、他の部会・グループと協力しながら、関連企画も行う。

「反戦平和部会」活動は、必ずしも、ATTAC 京都の再生産（新規メンバー獲得）に資する、とはいえないし、また、「自己拡大」を目的の主眼とすべきでもない。多様なグループ・意見・表現が、共存して然るべき「運動」で、あたかも、「運動拡大」と「自己グループ拡大」とが同一であるとして、グループが新規メンバーを囲い込みするために運動を行うばあい、「運動」・「グループ」双方とも閉塞することは、これまでの数多の事例が教えている。

反戦平和の分野においては、ATTAC 自体の拡大よりも、むしろ、それぞれの課題を抱えている社会運動・市民グループを緩やかに媒介し、相互に影響しあうことで、運動全体として、新しい関係性を作り出していくことを目指す。

「反戦平和」アクション

昨年度は、「やめてんか！小泉政権 12・6ピースウォーク」の呼びかけに加わり、「111アクション」にも、ATTAC として賛同した。以下、「反戦平和部会」の実働開始以来、いずれかのメンバーが個人的に参加・意思表示した、「デモ/PW の日次一覧」。

「12・6」「12・20」「1・11」「1・17」「1・31」「2・14」
「2・15」「3・20」「4・11」「4・12」「4・17」「4・18」
「4・24」「4・29」「5・3」「5・9」「5・16」「5・22」「5・30」
「6・5」「6・6」「6・12」「6・27」「7・4」「7・18」「9・5」

同一日次に、複数回の「デモ/ウォーク」が設定されているばあいもあるので、回数でいうと、さらに多くなる。反省点として、参加者・当事者を抱えているにも関わらず、これらの包括的な分析を、いまだ、誰も物していないことが挙げられる。

憲法をめぐる

昨年度は、「反戦平和」企画として「憲法をめぐる茶話会&ゼミ」(2004/06/13)を行った。また、「5・3憲法集会実行委員会」へ、メンバーの何人かが積極的に参加し、内容の検討に関わった。

「憲法を守る」とは、本来、為政者を不断に監視していく主権者としての態度にも関わらず、「憲法とは、国民に守らせる、守るべき規範」であるかのような(例:読売改憲試案)倒錯した言説さえ罷り通っている。このような状況のまま、改憲発議が行われることを防ぐためにも、「九条改悪に反対する京都署名実行委員会」に参画するとともに、独自の学習会も検討する。

また、「京都社会フォーラム(KSF)」参加グループと協力して、憲法を考える連続企画を行う予定である。

他グループとの活動交流

「反戦平和」を考えるうえで、意義のある活動をしているグループと協力し、可能であれば、交流の場を設定する。「反戦平和部会」の提起より、昨年度は、「5・3憲法擁護の意見広告」、「イラク国際戦犯民衆法廷」、「7・4 WPN 渋谷事件への抗議声明」などへ、ATTAC 京都として団体賛同した。

今年度は、イラク反戦・自衛隊撤退を訴えていくうえで、引き続き、「民衆法廷」運動の推移に注目していく。また、昨年度、充分に取り組めなかった、戦争構造が市民社会に及ぼしている様々な影響、構造的・歴史的な問題について考えるため、KSF 参加予定グループ(難民支援、ジェンダー研究)と協力し、可能ならば学習・交流会を行う。
